

アジサイ

Hydrangea



学名: Hydrangea L. (ヒドランゲア)
科名: Saxifragaceae (ユキノシタ科アジサイ属)
原産地: 極東、北アメリカ

花

梅雨時に鮮やかに庭先を彩るアジサイは、日本を代表する花のひとつで、比較的簡単に栽培できます。アジサイの花は、小さな花がたくさん集まって咲くのが特徴で、その集まりを「花房^{かぼう}」といいます。品種はおよそ80種。低木種、落葉種、常緑樹種、原種に近いもの、小花をたくさんつけたもの、つるのあるものなどさまざまなタイプがあります。花色も白、ピンク、赤、水色、そして藍色と豊富です。葉は、縁にギザギザのついた大判の楕円形をしています。

アジサイはアジサイとハイドラングア(西洋アジサイ)に大別されます。アジサイはもともと日本の山野に自生していたもので、庭木に適しています。いっぽう、ハイドラングアは鉢花用としてヨーロッパで品種改良され、逆輸入されたものです。

どちらもユキノシタ科アジサイ属の植物で基本的な性質は同じですが、栽培方法が若干違います。ハイドラングアはアジサイよりも寒さに弱く、主に鉢植えにされています。花の色が豊富で、日持ちがよいことから近年人気を集めている花のひとつです。

ハイドラングアの品種には、常緑樹で高さが6mにまで伸びるつる性のハイドラングア・インテジェリマ、長さが20mにもなり日陰を好むハイドラングア・ペティオラリス(別名ハイドラングア・スカデンス)があります。また、ハイドラングア・ホルテンシスは、寒さに弱いハイドラングアのなかでは例外的に、寒さに強い低木で、-15℃の環境にも耐えられます。地上にでている部分が霜にやられていても、春に



高さと同径が3mにもなるハイドラングア・パニクラーク 'サンセット'

ア
ジ
サイ

MEMO	栽培: 難易度 ★★☆☆☆	開花時期: 6~7月
	生育温度: -3~20℃	収穫時期: -
	手入れ: 剪定・落葉の整理	高さ: 20~400cm
	土: 6:3:1 (培養土: 鹿沼土: ピートモス)	病気・害虫: 腐敗病・ダニ、アブラムシ

なると見事に再生する力を持っている品種です。

日本のアジサイには、伊豆、房総などに自生し、葉に光沢のある大型のガクアジサイ、山間地に自生する小型のヤマアジサイ、北海道の豪雪地帯に自生し、光沢のない大きな葉を持つエゾアジサイなどがあります。

栽培ポイント

👤 栽培

丈夫な植物なので、庭で簡単に栽培できます。植えつけの時期は、11月から3月がよいでしょう。鉢植えの場合は、開花後は屋外に出すか、庭に植えかえるしかないと、1年以上はもちません。どちらの場合も日当たりがよく、水はけのよい場所で栽培します。ただし、日差しに弱いヤマアジサイ系は、木陰になるところを選びましょう。

🌡️ 生育温度

ガクアジサイなど日本種のアジサイは-3℃くらいの低温でも大丈夫ですが、ハイドラングアは比較的低温に弱く、極度の寒さは部分的に枝の木化の進行を妨げる原因にもなります。春先に枝先が枯れたら、寒さによる害だと考えられます。わらを敷くなどして防寒しましょう。反対に、極度に暑くても、突然開花しなくなることもあります。20℃以下が適温です。

ハイドラングア・ヘテロモラ 'ブレッツェルナイデリ'の花



👉 手入れ

7月中旬～8月上旬の、花が終わって新芽が出始めるころ、地上部を2～3節残し、枯れた枝やしおれた花序を取り除きながら慎重に剪定します。また、新芽の発育を促進させるために、細くて弱い枝も間引きを兼ねて根元から切り落とします。

☀️ 日照

なるべく日当たりのよい場所に置きます。半日陰でも大丈夫ですが、極端に日照が不足すると花つきが悪くなったり、枝などが細くなります。寒さに弱いハイドラングアの場合は、室内の日当たりのよい場所に置きます。ただし、気温が上昇する5月以降は、戸外に置いてよいでしょう。

💧 水やり

土は常に湿った状態にしつつ、水はけはよくなければなりません。特に、植えつけの直後にはたっぷりと、暖かい日には1日に2回与えるようにしましょう。ただし、6～7月の開花時期には水をやりすぎないようにします。

▲ 土

水はけのよい土壌が適しています。培養土6、鹿沼土3、ピートモス1の割合で配合した用土がよいでしょう。また、アジサイは土の酸度によって花色が変わる不思議な性質もっています。酸性が強いと青系に、アルカリ性に傾くとピンク色に変化します。

🍷 肥料

庭植えの場合には、年に1回、3月下旬に1㎡あたり50～100gの化成肥料を、株周辺に軽く溝を掘って与えます。

鉢植えにしたハイドラングアの場合には、10日に1回、液体肥料を1000倍に薄めて与えます。化成肥料も液体肥料も窒素、リン酸、カリウムが同率のものを選びましょう。

🪴 植えかえ

鉢植えの場合だけ、根が密集して、根腐れを引き起こすため、1年ごとに植えかえをします。時期はアジサイの花芽ができる7月下旬～9月がよいでしょう。



翌年にも 花を咲かせるために

花が終わる次第、剪定をします。葉のつけ根に伸びているのが新芽です。新芽は花がらの下、1～2節にはないので、3節目以下の節の上1cmくらいで切ります。この新芽が翌年の開花花となるので、切り落とさないように注意しましょう。

剪定は7月中旬から遅くとも8月上旬までに行います。9月以降になると、花がつかなくなります。水や肥料のやりすぎは根腐れの原因となり、また、窒素肥料が多すぎると、莖葉が茂って、花が咲かなくなります。



殖やし方

アジサイは一般的に挿し木で殖やします。梅雨の時期の6月上旬に、花のついていない枝の先端を10~15cm切り取り、発根剤（ルートンなど）を切り口につけ、砂またはパーライトとピートモスを半々に混ぜ合わせた用土に挿します。1か月もすれば発根してくるので、4号鉢に植え、その後さらに大きな鉢か庭に植えかえます。鉢植えには、荒廃土（ゴロ土）や松の針葉か泥炭入りの腐葉土を用いましょう。早い時期に挿し木をすると、生長してからたくさんの花をつけますが、逆に挿し木が遅いと花がひとつしか咲かないものになります。

購入アドバイス

鉢と株のバランスがよく、莖ががっしりと太いもの、花色が鮮明で花が傷んでいないものを選びます。3月から4月中旬なら、花の色がよくついているものを、また5月以降の暖かい時期には、花を長く楽しむために、花の基部まで色のついていないものを選ぶとよいでしょう。葉裏にダニがついていないかチェックすることも大切です。



小さな花が集まって咲くアジサイは、雨の多い日本の風土によく合った植物です。

ハイドランジア・ペティオラリス

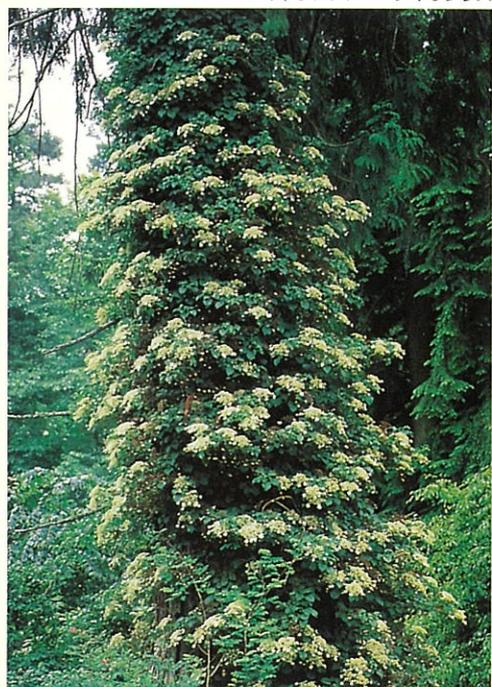


花の色が青く美しいハイドランジア・ホルテンシズ



高さと同径が4mにもなるハイドランジア・ホルテンシズ

作業	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
日照							日向						
水やり			ふつう				少なめ			ふつう			
肥料				◆									
植えかえ							→						



病気対策と害虫防止

- 腐敗病は、ピティウムとリゾクトニアという2種類のカビが原因です。発病してしまった場合は、その部分を取り除きます。灰色カビや白カビも葉に害を与え、アジサイを傷めるので、ポリオキシン水和剤などで除去しましょう。
- 5~6月と9~10月は、葉にダニやアブラムシが発生しやすくなります。ダニにはケルセン乳剤またはエイカロール乳剤、アブラムシにはマラソン・MEP乳剤またはDDVP乳剤をそれぞれ1000倍に薄め、1週間に1度程度、葉の裏を中心に散布します。
- ナメクジは、落葉などをまめに取り除いて、土壌の湿度を抑えて予防し、発生したら、ナメクジペレットなどの駆除薬を散布するか、捕殺します。

アジサイの花色と土の関係

アジサイは土の性質によって花の色が変わる、めずらしい植物です。土が酸性だと青系統、中性かアルカリ性だと赤系統になる傾向があるのです。これは、土のなかのアルミニウムが植物の色素と反応して引き起こすものです。この性質を利用すれば、植えかえや鉢あげのときに、選ぶ土によって思い思いの花色をだすことができます。

青色の品種には、酸性の用土を使うと、そこから溶けだしたアルミニウムがアントシアン色素と結合し、濃い青色をだすことができます。アルカリ性の用土では、ほ



千葉の房総半島に自生するタマアジサイ。アジサイの中では小さい部類に入ります。

けた青紫色になってしまいます。

用土を酸性にするには、酸性のピートモスを使うとよいでしょう。あるいは、硫酸アルミニウム1~3gを1ℓの水に溶かして、9~10月に、10日おきに3~4回与えるという方法もあります。

これに対し、赤色の品種を酸性の土に植えると、きれいに発色しません。腐葉土、木炭、石灰などを使って、アルカリ性の土をつくりましょう。ピンクの品種なら、苦土石灰などを加えて用土を中性からアルカリ性に保ちます。

なお、白い品種は、土の成分に関係なく、白色になります。



光沢のない大きな葉が特徴のエゾアジサイ。新潟、東北、北海道南部の豪雪地帯に自生しています。



花房がガクアジサイ型のベンガクアジサイ。濃紅色の花色が特徴です。

アジサイの名所



静岡県下田市・下田公園のアジサイ

アジサイといえはすぐに梅雨を連想させるほど、日本人には馴染みのある花です。神社仏閣の境内や公園など、日本中のいたるところに植えられており、6月から7月にかけては、日本各地でアジサイ祭りがひらかれています。そこで、たくさんあるアジサイの名所のなかで、代表的なところを紹介しましょう。

山形県米沢市にある笹野観音堂の広い境内には、樹齢4500年以上もあろうかと思われる杉が林立し、7月になると、その根元に数百株のアジサイが咲きます。関東地方では、千葉県麻綿原高原が知ら

れています。ここは霧に包まれることが多く、幻想的な雰囲気漂う、別名「房総のアジサイ寺」といわれる妙法性生寺の敷地内にあり、2ha以上の広大な敷地に数万本のヒメアジサイが植えられています。いっぽう日本屈指の規模を誇るのが、静岡県下田市の下田公園で、伊豆半島に自生するガクアジサイをはじめ、西洋アジサイ、ベンガクなど10数種類のアジサイが15万株も群生しています。また、関西地方では、色とりどりのアジサイが谷間を埋め尽くすように咲く、矢田寺が有名です。